



2007年12月10日

### 【重要】:ヘリウム供給節約願いの解除について

液体ヘリウムの利用に関しては、米国のヘリウム輸出削減の折、節約にご協力していただきありがとうございます。

12月3日付けで各研究室の寒剤関係の責任者にお送りしましたメールにありますよう、これまで液体ヘリウムの使用量を通常の7-8割程度にとお願いしておりましたが、米国でのヘリウム精製装置の工事が一部延期となり、輸出削減も全部ではありませんが緩和されました。これに伴いまして、東北大学でも12月はフルに購入が可能となったことから、お願いしておりました節約利用を一時的ですが解除したいと思います。

12月分のヘリウム利用は節約前と同等の通常通りで可能となります。また極低温科学センターのSQUID(1T)の共同利用も再開いたします。これまでのご協力重ねてありがとうございました。

ただし、業者によるとこの購入制限解除は一時的なもので1月以降は保障されるものではないということです(米国の動向と国内需要の動向次第)。もしかしたら年明けに再度節約の御願いをすることもあるかもしれません。

### 回収率の向上の御願ひ

次ページ表に7-10月までの建物別の回収率をお知らせします。10月13日のニュース(Vol.1)では前期に比べ上昇傾向にある(7,8月平均回収率は85%以上)とお知らせしたのですが、再び減少傾向が見られてきました(7-10月での平均回収率は81%)。ヘリウムは液体として供給してから極低温科学センターへガスとして回収されるまで、装置によって1ヶ月以上かかることもあり、建物によっては長期にわたる観察が必要な場合もあります。しかしこれを考慮しても減少傾向があることは否定出来ない状況です。今まで以上に回収率の向上、不要なヘリウム利用削減に取り組んでいただければ幸いです。

この件に関する問い合わせ先

極低温科学センター低温科学部(片平)  
野島(内2167)nojima@imr.tohoku.ac.jp